

- 1 派遣期日 令和4年11月11日（金）
- 2 派遣先 学校名（会場名）群馬大学共同教育学部附属特別支援学校
所在地 群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号
<https://shc.edu.gunma-u.ac.jp>
- 3 研修内容
 - （1）視察校における研究への取組

子どもが自ら考え、学び合う授業実践
～資質能力の育成に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」へのアプローチ～

群馬大学共同教育学部附属特別支援学校では、一人一人の学びと学び合いの両立はできないものか、との考えから上記の研究主題に取り組むこととした。今年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の場面を計画的に授業に取り入れることを行った。

具体的な取組として、以下の3点が挙げられる。

- ・実態調査票を基に、指導の個別化の観点から実態を把握する。
- ・個別の教育支援計画等を基に、学習の個性化の観点からキャリア形成の方向性を取り入れる。
- ・協働的な学びの姿を想定した授業づくりを行う。

上記について実践を行ったところ、以下の成果と課題が得られた。（○…成果、△…課題）

○適確に実態を把握することが、指導の個別化につながった。

実態を把握し、興味・関心のあるものを取り入れたり得意な方法を取り入れたりしたところ、積極的に活動に取り組み、自分で必要なものを選んで取り組むことができた。

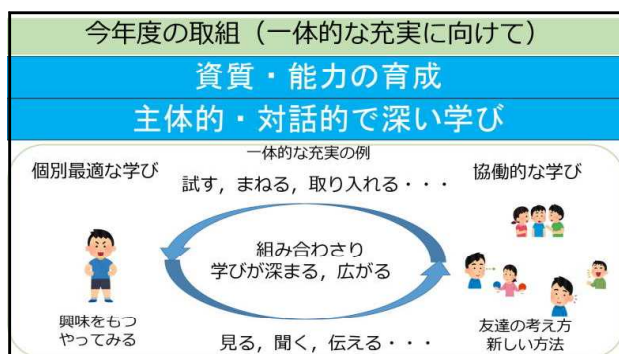
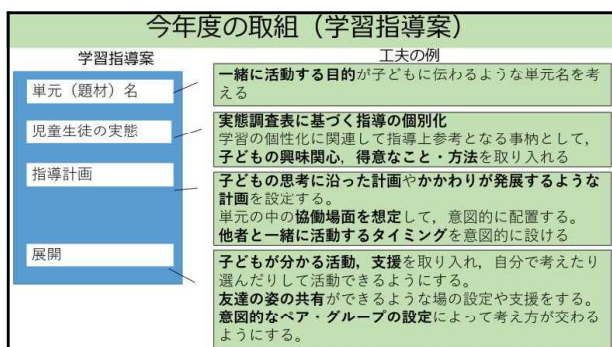
○協働的な学びを意識することができた。

教師が児童生徒に対して発した言葉を聞き、同じように試そうとする姿や友達の様子を見てまねる姿が見られた。

△学習の個性化と協働的な学びについて、どのように取り入れていくか考えていく必要がある。

学習の個性化と協働的な学びの一体的な充実に向けて、試す、まねる、取り入れるなど様々な学びの姿を捉えて働きかける必要がある。双方が組み合わせたり、学びが深まり、広がるようにしていきたい。

学習指導案では、研究テーマを受け、学習の個性化と協働的な学びの場面が分かるような工夫がされていた。



(2) 授業を参観して

①小学部 生活単元学習「おきにいりらんどをつくってあそぼう」

児童が好きな遊びを紹介し、友達と一緒に遊ぶ学習を行った。遊びを紹介するための写真等は、家で遊んでいる様子の写真を活用するなど、家庭と協力しながら授業を作っていた。友達と遊ぶ際にかける言葉が分かるように、児童はイラスト付きの言葉カードを首にかけていた。カードを活用することで、語彙が増え、場面に合う言葉を言えるようになっていた。授業反省では、場の構成について話題に挙がった。初めて見る環境で教師に「遊んでみましょう。」と言われてしまうと、児童が好きな物に飛びついてしまうことは多い。そのままだと混沌としてしまうので、各コーナーの説明があると考え、きっかけ作りになってよいとのことだった。

②中学部 数学科「くらべよう はかるう ～ふとく宅配ゲーム～」

活動を通して重さについての学習を行った。教室内で生徒を2つのグループに分け、個に応じた学習を展開した。1つのグループでは、大きな天秤を用意し、色の違う分銅を置きながら重さを比べた。操作する過程で生徒同士が「〇〇個分だよ」「まっすぐになった」等の声を掛け合いながら活動をしていたことが印象的だった。こういった言葉が協働的な学びへとつながっていくのだと感じた。もう一方のグループでは、基準の重さを超えると動き出すロープウェイやビニールプールに浮かべた船を用いて活動を行った。生徒同士が声を掛け合うことはもちろんであるが、重りを動かすタイミングに合わせて「〇〇さんがロープウェイで運びます」等の言葉かけを教師がすることで、他の生徒の関心を引くようにしていた。



<ロープウェイで荷物を運ぶ様子>

③高等部 作業学習「新製品の規格作り～冬のハーバリウム～」

農園芸班の学習として、新製品の規格作りを行った。企画ではなく規格としたことで、検品を教師に頼むのではなく、生徒自身が主体的に行うことができていた。作業中は生徒がお互いに声を掛け合いながら、色や材料を考えるなど思考を深める場面が見られた。考える時間をうまく確保できるように、材料の配置を整えたり、作業の手順表を用意したりすることで、作業の過程で迷うことがないようにしていたことが素晴らしいと感じた。作業学習に限らず、学習においては生徒の得意なことを部分的に取り上げ、分業にすることをしてしまいがちである。しかし、分業にして流れ作業にすることは、人はうまくならないという前提で遅い人に合わせることになってしまう。それに対し、セル方式で各自が最後まで自分で行うことは、達成感を得ることができる。授業反省会でこのような話があり、普段の授業について考えさせられた。



<構造化した場の設定>

(規格の基準がわかるように掲示し、全体で確認できるようにしていた。)

4 感想

授業公開、反省会、シンポジウムまで参加して、多くの学びを得ることができた。どの授業においても、教室での動線が明確であり、スケジュールがしっかりと立てられ、児童生徒にとって見えるようになっていた。授業の構造化がされていることで、何を、どのように、いつまでやるかがはっきりとしていた。そのためには事前に担当者で綿密に打ち合わせをし、準備をすることが大切であると改めて感じた。目の前の児童生徒の実態を捉え、毎日の授業が充実したものとなるように、これからも努めていきたい。